

特集1 保育園視察報告

宇都宮大学&お茶の水女子大学

2007年2月現在、国立大学法人87大学のうち、35大学に学内保育施設が設置されています（2007年 熊本大学男女共同参画推進部の調査による）。男女共同参画推進本部では、7月17日に宇都宮大学、7月20日にお茶の水女子大学の保育施設の視察を行いましたのでご報告いたします。両大学はともに附属病院をもたず、規模の上でも本学での保育施設設置の検討にたいへん参考になるものと考えられます。

「国立大学法人宇都宮大学 まなびの森保育園」紹介

- 2006年（平成18年）11月開所 社会福祉法人峰陽会（ほうようかい）が運営
- 設立の経緯：宇都宮大学教職員が中心となって、多くの方々からの寄付をつり設立
- 保育対象：定員90名 現在108名入所（0才から5才）
※障害幼児3名入所
- 利用している大学関係者：教員・職員・院生（現在入所児の16%）

まなびの森保育園の願い『平成18年3月社会福祉法人峰陽会が認可され、同年11月宇都宮市峯保育園の廃園に伴い、その子ども達を受け入れるかたちで当園は産声をあげました。峰陽会は宇都宮キャンパスがある峰町と陽東の地名の頭文字をとったものです。『ほうよう』は「抱擁」そして「愛」をイメージ。『まなびの森』は、そこに集う人々の学びの場になって欲しい願いをこめ、また、みずみずしい森はいろいろな生物が共生し、人を潤し限りなく好奇心を刺激してやみません。太陽に向かって木々をどこまでもまっすぐに伸ばす。そんな保育の森でありたいと願っています。』



お話をうかがって、「念ずれば通ずる。死ぬ苦しみも乗り越えられる。あきらめなければ。4人いればなんとかなる。（計画立案・交渉・実務・推進の4名の牽引車）」ということを学びました。

「国立大学法人お茶の水女子大学附属いずみナーサリー」紹介

- 日本で唯一の、大学附属保育所（無認可保育園）
- 設立の経緯：1999年 数人の教員が保育園を作ることを佐藤学長に提案したことを契機に、「保育施設に関する調査研究会」、「保育施設検討特別委員会」での検討、「幼稚園内保育施設設置準備ワーキンググループ」での準備期間を経て、2002年6月 附属幼稚園「PTA室」を保育室として、「いずみ保育所」が定員6名でスタート。本田学長の意向で、大塚寮を改修し、小規模無認可保育園として運営することを決定

し、2005年3月から、附属学校部に所属する「お茶の水女子大学附属いずみナーサリー」がスタートした。

■ 保育対象：定員18名（0歳6名、1,2歳12名）

■ 利用対象者：学生、教職員、関係者の紹介を受けている人、附属学校園の在園児のきょうだい

保育園を作ることを提案した数名の教員が現在の施設長や研究推進にあたっており、また、本田学長の決断が設置を推進。数名のキーパーソンがいることが、保育園設置の鍵だと思いました。



特集2 附属学校園のアンケート結果報告

経緯と対象者 男女共同参画推進本部では、2006年2月に13の附属学校園の管理職（各学校園から1名が代表で回答）にアンケートを行いました。今回は、附属学校園の全教職員314名を対象に、前回の拡張版のアンケートをおこない、165名から回答を得ました（回答率は52.5%）。回答者のうち、男性が62%、女性が38%で既婚者は69%でした。年齢は20代が12%、30代が27%、40代が29%、50代以上が32%で20代をのぞき、3割前後でほぼ均等でしたが年齢が上がるほど若干人数が増える傾向がありました。

労働条件 会議ごとの開催時間を「1.勤務時間内に終了」（最も望ましい）、「2.勤務時間内に開始し時間外に終了」（あまり望ましくない）、「3.勤務時間外の開催」（望ましくない）に分類し割合を調べた。1,2,3の順に、教科部会は68%,17%,15%で、教員会議は41%,58%,2%、定例の全体研究会は54%,44%,2%、学年会（学部会）は40%,45%,15%、各種委員会・部会は50%,46%,5%、教育実習生指導は11%,69%,20%、その他の会議は32%,21%,47%であった。管理職の回答より開催時間がやや遅い傾向が見られた。

退勤時間 通常の退勤時間は、男女ともに7時台がもっとも多く（男性31%と女性32%）、6時から9時台までが大部分（84%と90%）で、統計的に男女差はなかった。ただし5時台は少なく（4%と5%）、10時台（7%と3%）、11時台（3%と0%）、12時台（1%と2%）も男性の11%、女性の5%にいた。

休日出勤 部活動指導の休日出勤も統計的な男女差はなく、「毎週ほとんど」が14%（男）と10%（女）、「月1回程度」が21%と17%、「年数回程度」が36%と32%、「ほとんどない」が29%と42%であった。

残務や授業の整理のための休日出勤も男女差はなく、「毎週ほとんど」が21%（男）と19%（女）、「月1回程度」が30%と37%、「年数回程度」が38%と32%、「ほとんどない」が11%と12%であった。

有給休暇日数 有給休暇の最頻値は10日（34.5%）で、次に1-5日が55人（33%）。0日も5%いた。

女性の特性の考慮 海や山での女性の特性（月経・妊娠・更年期）に配慮した仕事分担の達成度については、「はい」が男性で44%、女性で16%、「いいえ」は男女とも34%だった。統計的には「男性は配慮しているつもりでも女性は不満」という結果であった。

職場の雰囲気 「男性優位」と「意思疎通のよさ」の2つの因子で男女差を検討した結果、男性優位因子のみで、男性よりも女性の方が、社会的に男性の方が優位だという認識をもっていた（t検定）。

持ち物の男女別 持ち物を男女別に指定する（69%）学校園のほうが多かった。学校指定が制服（56%）、

制帽 (33%) , 体育着(18%)で、教員個人指定が若干 (5%前後:防災頭巾座布団, ピアニカ等) あった。
行動の男女別 「朝礼などの整列」(61%) , 「教室の席順」(32%) , 「クラス分け」(19%)の順に多かった。

注意の男女別 「家の手伝い」は男子(21%)より女子(55%)に、「行儀」は女子(24%)より男子(53%)に多く注意していた。忘れ物、言葉遣い、清潔・身だしなみ、整理整頓、喧嘩、怠慢などは男女平等に55%前後の教員が注意していた。

日頃の男女の区別 過半数の教員が「はい」と答えたのは、「男子は君付け、女子はさん付け」(幼稚園以外全校種) , 「男の子だから、女の子だから、と言わない」(養護、高校以外の全校種。幼稚園は100%)であった。

子どもへの接し方の男女差 「つい優しくしてしまう」といった「やさしさ因子」では男女の教員ともに同性より異性の子どもにやさしく、「話しかける」「授業で指名する」といった「コミュニケーション因子」や、「仕事を頼みやすい」という「信頼感因子」では教員は異性より同性の子どもを高く評定していた。つまり異性の子どもには「やさしく」、同性の子どもとは「話しやすく頼みやすい」ようだ。

価値観の男女差 「男女の違いを認め合い、補いあうべき」「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべき」「子どもが小さいうちは母親は家にいたほうがよい」などのステレオタイプの考えは男性のほうが強く、「女性の校長・教頭をもっと増やすべき」などの参画因子は女性のほうが高かった。

なお、アンケートの詳細な集計データについては、ホームページに掲載しますのでご覧ください。

コラム

「幼稚園は女性の職場か？」

(附属幼稚園 教諭) 中野圭祐

附属幼稚園に勤務して6年になる。古くから、幼稚園は女性の職場であると思われてきた。現在でも多くの幼稚園は女性しか働いていない場合が多い。

幼稚園という職においては、まだまだ男性の占める割合は低い。そもそも幼稚園教員を志そうとする学生が少ない。幼稚園教諭と保育士はまた別物だけれど、世間一般に、「保母さん」という言葉が浸透していた時代、その名称からも、「『女性が』、エプロンをつけ、ピアノを弾き、いつも遊んでいて、一緒にお昼寝をする」仕事であるというイメージが、強烈に、根強く、日本人にあった。更にそのことは、やり甲斐があり、世間からの認知も高く、それなりの収入を望もうとする男子学生にとって、幼稚園教員を志そうという意識をもたせにくくしてきた。また、現実問題として、多くの私立幼稚園では収入が低く、家庭をもつことが難しいという現状もある。

男性が少しずつ保育の現場に進出してきてはいるものの、世間からの認知は低い。私はそのもっとも大きな理由は、その業務内容を幼稚園教諭以外の殆どの日本人が勘違いしていることにあると思う。「毎日遊ぶのが仕事でいいね。」と、大抵の日本人は思っている。幼児教育の重要性と、そこで行われている教育的活動、生活、研究、更にそれらを遂行するためには幼稚園教諭は夜中まで仕事をしているという事実は、まだまだ知られていない。

これから幼児教育に男性が進出していくためには、その存在の必要性というよりは、その仕事の重要性を広く発信していかねばならないのだと感じている。

特集付録 東北大学川内（かわうち）けやき保育所視察報告

これまでOPGE通信でご報告しました大学内保育施設の視察に先立ち、2006年10月14日に東北大学の保育施設の一つを視察しました。

■2005年（平成17年）9月開所 大学内無認可保育所

■定員 25名（常時保育15名 一時保育10名程度）

■運営：社会福祉法人「木這子（きぼこ）会」に委託

■敷地は大学が提供 建築費は大学から支出（4,500万円） ※但し、その半額は21世紀職業財団からの助成

■保育対象児：（常時保育）東北大学の教職員等の子どもで保育を必要とする家庭

※生後2ヶ月から小学校就学前まで

（一時保育）東北大学の教職員等の子どもで、保護者の入院又は各種研究会等への出席など緊急の事情が生じた場合。

※ 生後5ヶ月から小学校就学前まで

お話しをうかがって、「東北大学にとってプラスになればいい。職員等が保育園が活用できることで研究・教育・業務に十分力が発揮できる事が重要。」（木這子会理事）という言葉が強く印象に残りました。

お知らせ

* 国際ジェンダー学会 2007年大会が本学で開催されます

日程：2007年11月10日（土）～11日（日）

男女共同参画推進本部は、公開シンポジウム「教育の現場とジェンダー」（11月10日（土）

14:00～17:00；中央講義棟 C303教室）を後援しています。

* 男女共同参画フォーラム：映画「心理学者 原口鶴子の青春」上映および泉悦子監督講演会

日時：2007年12月5日（水）15:00 開場

15:30～17:00 上映

17:00～18:00 監督のトーク

場所：南講義棟 S411教室

日本女子大英文科を卒業後、100年も前に女性が単身渡米し、日本人女性ではじめてアメリカで博士号を取得した原口鶴子女子の生涯を、綿密な取材で映画化した力作。当時それだけの事をするのが、どんなに大変だったことか、そしてそれを成し遂げた鶴子女史の能力と人間力の素晴らしさを感じていただければ幸いです。彼女はコロンビア大学の、心理学者なら知らない人はいないソーングダイク、キャッテル、ウッドワースのもとで疲労の研究で博士号を取得しました。建造物もほとんど残っており、心理学者や留学希望者にはもちろん、興味の尽きない作品となっています。

* 男女共同参画フォーラム：「みんなで子育て～男女共同参画を拓く子育て支援大集合」

日時：2007年12月26日（水）14:00～16:00

場所：附属学校合同棟 1階大講義室

本学で行われているさまざまな子育て支援の取り組みが、一堂に会します。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学男女共同参画推進本部

●TEL/042-329-7108 ●fax/042-329-7114 ●E-mail/danjo@u-gakugei.ac.jp

●URL/http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/

詳しい情報等はホームページをご覧ください。